

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和3年(2021)3月10日

No. 159

発行 高津啓洋

希望の福地目指し

4月は、雨季から乾季に入れ替わるときです。気温も35℃よりも、少し落ち着いて30℃ぐらいになってきます。

レダでは、コロナ禍の中、苗木の管理や植樹地域一帯の管理も休みなく行われています。

苗木のための、寒冷紗(かんれいしゃ・遮光ネット)の修理も強風や雨の強いレダでは、絶えず修理が必要となっています。大工の

棟梁である水落勝さんに、適宜修理をしていただけるのは感謝です。



苗木も元気に育ちます



寒冷紗の修理

レダには、自生の木がたくさんありました。ほとんどが、牧場と十数年に一度の川の氾濫による洪水で、低い木は枯れたりします。しかし生き残った木は元気に育ち、その子孫も残されています。

レダ周辺で見える木に、アルガ

ロボという木があります。

そしてその周りには、落ちた種から実生(みしょう)が生えています。それらを集めてポット苗にして、植樹をしていきます。これらの木は土地本来の木で、貴重なものです。右上の写真の木がアルガロボで灼熱のレダでは、牛や馬たちの貴重な木陰となります。右の写真は、実生をポット苗に植え替えたもので、記念植樹の時に、ニームの苗木と共に植えられていきます。(伊達記)



春期セミナー・5月15日開催

日時：5月15日(土)10時受付、5時終了予定

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

(小田急線参宮橋駅徒歩7分。または渋谷駅西口40番乗り場よりバス、代々木5丁目下車)

参加費：2000円(昼食を含む)当日受付にて

参加を希望される方は、Faxまたはメールにてお申し込みください。

●「レダと日本における植樹活動」

共催団体の南北米福地開発協会の講師も講座を担当します。



講師を担当する高津理事長



フォレストレータ

2021年4月10日

●寒冷紗 (かんれいしゃ)

寒冷紗は、一般的には、遮光ネットとして、また防虫ネットとしてホームセンターなどでは売られています。

夏の強い日差しに当たると、葉焼けを起こすなどして植物が傷んでしまうことがあります。そのため、日差しを遮れるような資材がホームセンターなどでたくさん販売されています。そんな資材の1つが寒冷紗です。

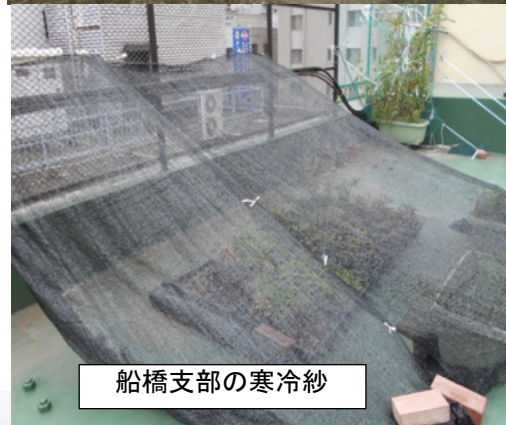
●黒の寒冷紗と白の寒冷紗。

黒の寒冷紗は遮光率約50%、白は約20%です。遮光率が高いほど水の蒸発や日光を防ぎますが、湿度が高くなる日本では蒸れによる

根腐れや日照不足に注意してください。網目の大きさによって遮光率が変わるので、植物に合わせて日光を調節することが大切です。



寒さと防虫の寒冷紗



船橋支部の寒冷紗



長野の高津理事長の苗木育苗所の寒冷紗



●皆様からの植樹支援が活かされています。

寒冷紗は、レダの過酷な環境では破れたり被害が出ます。皆様からの尊い支援が、次のポット苗を育てる大切な役割を果たしてくれています。今まで、青年協力隊や、様々な公的な市町村や学校などからの植樹依頼の時に、常時8千本以上の苗木が準備されていることは大きな助け

となります。皆様がレダを訪問されたら、必ず記念の植樹をする事が出来ます。是非来てください。待ってます。



レダのポット苗作りも寒冷紗の下で